

第22回名古屋高速道路公社入札監視委員会の結果について

開催日及び場所	平成28年6月14日(火) 名古屋高速道路公社本社2階大会議室	
委員	北條 政郎(委員長 弁護士)・張 鋒(大学教授)・野田 直季(公認会計士) (敬称略)	
審議対象期間	平成27年4月1日～平成28年3月31日	
抽出事案 〔工事〕	総件数 2件	
・一般競争入札	(総合評価落札方式) 2件	平成27年度高速3号大高線塗装修繕工事(笠寺工区)
		平成27年度高速1号楠線楠料金所補修工事
抽出事案 〔建設コンサルタント業務等〕	総件数 2件	
・一般競争入札	1件	平成27年度名古屋高速道路の維持管理に関する検討業務委託
・随意契約	1件	平成27年度料金收受/ETC設備システムオペレータ業務委託
委員の質問等 に対する回答	質問	回答
	別紙のとおり	別紙のとおり
講評	<p>①抽出させていただいた事案を通じて、公社の入札が適切な執行がなされていると考えている。</p> <p>②入札契約制度の改正については、今回ご説明いただいた工事における一次下請業者を社会保険等加入業者に限定や入札時における工事内訳書の取扱いについては評価できるので、これらを通じて、今後とも高速道路の利用者の安全安心な利用のため、また高速道路の維持のために適切な入札業務を行っていくことに心掛けていただきたい。</p> <p>③総合評価落札方式の加算点について、入札参加者に参加しやすい条件を今後ともより整えていくよう検討していただきたい。</p>	

委員の質問等に対する回答

1) 工事

抽出事案	質問	回答
①平成27年度高速3号大高線塗装修繕工事(笠寺工区)【一般競争】	一般競争入札で参加者が多く、落札率が低かった理由は。	塗装工事については一般的に工期が2年を超えるが、本件の場合には床版工事と同調して施工することから、工期が2年を下回ることによって効率的に施工できるため、参加者数が多くなり、競争原理が働いて落札率が低くなったと推測される。
②平成27年度高速1号楠線楠料金所補修工事【一般競争】	一般競争入札で参加者が少なく、落札率が高かった理由は。	料金所工事は一般建築工事と異なり、施工上の制約、すなわち、料金所を全面閉鎖せずに一般車両を通行させながら行う必要があることから、効率が悪い作業となるため、参加者は施工実績のある業者のみと少なく、その結果落札率が高くなったものと推測される。

2) 建設コンサルタント業務等

抽出事案	質問	回答
①平成27年度名古屋高速道路の維持管理に関する検討業務委託【一般競争】	参加者が3者で落札率が100%の理由は。	入札に参加した3者のうち2者は最低制限価格を下回ったため失格であった。残った1者が予定価格で入札しており、結果落札率が100%となったもの。失格した2者はぎりぎりの線を狙ってきたため最低制限価格を下回ったものと推測される。
②平成27年度料金收受/ETC設備システムオペレータ業務委託【随意契約】	随意契約で落札率が低かった理由は。	入札参加者の経営判断に基づく結果であると考えている。業務が確実に遂行されるよう受注者に指導・監督を行った。